

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

川南町長 宮崎 吉敏

市町村名 (市町村コード)	川南町 (454052)
地域名 (地域内農業集落名)	西光原地区 ( 西光原 )
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年2月12日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

本地区は、本町の南側に位置し、大規模農家を中心に甘藷、かぼちゃ、飼料作物等の作付けが盛んな畑地帯である。地域の特産作物となっている高品質な茶の栽培もされているほか、外資系企業によるキウイの生産地となっており、遊休農地の解消につながっている。

また、養鶏も盛んで、ブロイラー農場、鶏卵場が混在している。

大規模な担い手に農地の集約が進んでいる地域であり、今後も耕作放棄地が増加しないよう担い手への集約を進め、農地を利用していくことが喫緊の課題である。

農業者:27人

主な作物:飼料作物、甘藷、かぼちゃ、大根、ほうれん草、茶、キウイ、芝

## (2) 地域における農業の将来の在り方

地域の特産を目指し甘藷、大根、かぼちゃ、茶の栽培に取り組むとともに、担い手への農地集積・集約化を進め、農作業の効率化を図る。

茶については、高品質な生産を継続するとともに、輸出拡大に取り組んでいく。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	86.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	73.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	6.7 ha

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手の経営意向を踏まえ、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
機械の大型化に対応するための農道整備、作業効率化のための畦畔除去等についても、各種補助金制度を利用して取り組めないか検討していく。また、畑かんにより、天候に左右されない営農を図っていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
認定農業者、農業後継者を中心に持続的な農地利用につなげ、産地の維持や農業者育成に取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
作業の効率化が期待できるほうれん草の収穫は、JA系統法人に引き続き委託する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input checked="" type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①アナグマ、シカ、イノシシ等の鳥獣被害対策に関係機関と共に取り組む。
- ②茶の有機栽培及び露地野菜の減農薬、現肥料に引き続き取り組む。
- ③細菌、殺虫剤等の薬剤散布は、作業時間短縮につながるドローン散布を推進する。
- ④海外抹茶需要に対応できる生産体制強化を図り、高品質な茶の輸出拡大に取り組む。
- ⑤遊休農地の解消につながる外資系のキウイ栽培に取り組む。